

令和 5 年度(令和 4 年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	38-1
PDCA	主要事業名		病院経営事業		部課名		半田病院管理課			担当	知崎
										内線	22-9881
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 3 - 3 - 2 単位施策： 半田病院										目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用
	全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 18,202,496 千円										
	会計		半田病院事業会計				歳出科目：				
	事業概要等		知多半島医療圏内で唯一、救命救急医療センターを有し、高度急性期医療を担うほか、災害医療や周産期・小児医療等の政策的医療の提供も積極的に行っている。また、がん診療連携拠点、臨床研修、地域医療支援病院としての指定も受け、圏域における中核的な役割を担っている。								
			事業目的： 市民の福祉、健康保持に必要な安全で安心かつ質の高い医療を提供する。								
			事業内容： 救急・がんなどの高度医療や、地域の医療機関等との役割分担、連携の中心的な役割を果たすとともに、効率的で健全な経営を継続することで安定した医療を提供する。								
			問題点・課題等： 半田病院と地域の医療機関との医療機能の分化・強化・連携をさらに推進し、高度急性期から回復期、療養期までの総合的な医療体制を構築するとともに、新たな感染症発生の状況下でも持続可能な地域医療体制を整備することが必要である。また、医師および看護師を安定して確保し、質の高い医療を継続して提供することが求められる。								
	予算額		主要事業とする理由								
	18,202,496 千円		高度急性期から回復期、療養期まで切れ目ない医療を身近な地域で安心して受けることができるようにするとともに、効率的で健全な経営を継続することで安定した医療を提供するため。								
	財源内訳										
	市費		得られる成果								
	917,911 千円		高度急性期から療養期まで切れ目がなく、質の高い医療を継続して提供する。								
	国費										
10,396 千円											
県費		目標値や目指すべき状態									
18,198 千円				令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		単位	
その他		経常収支比率		実績値		101.1		105.7		－	%
				目標値		101.0		101.0		101.0	%
		医業収支比率		実績値		102.3		101.9		－	%
				目標値		101.0		100.0		104.0	%
17,255,991 千円				実績値							
				目標値							

D 実績得られた成果と	決算額		得られた成果								評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用	
	17,411,245 千円		新型コロナウイルス感染症が感染の拡大と収束を繰り返す中で、地域の基幹病院としての役割を全うすべく、3 次救急医療用の病床確保や臨時的なコロナ専用病床を設置するなどして感染拡大に対処した。特に常滑市民病院とは、限られた人員・医療環境の中で地域医療を守るために両病院で緊密な医療連携・機能分担を行い、救急医療と感染症医療を両立させることができた。									
			成果指標									
							令和 4 年度		単位			
			経常収支比率				実績値		107.4			%
							目標値		101.0			%
			医業収支比率				実績値		103.8			%
							目標値		104.0			%
C 課題の整理	事業の評価・課題		A 新型コロナウイルス感染症が感染の拡大と収束を繰り返す中で、地域の基幹病院としての役割を全うすべく、3 次救急医療用の病床確保や臨時的なコロナ専用病床を設置するなどして感染拡大に対処した。特に常滑市民病院とは、限られた人員・医療環境の中で地域医療を守るために両病院で緊密な医療連携・機能分担を行い、救急医療と感染症医療を両立させるとともに、より高度急性期に特化した医療を提供することで収益を伸ばし、光熱費の高騰が経営を圧迫する中においても、経常収支比率（107.4%：目標101%）、医業収支比率（103.8%：目標104%）の黒字計上を達成することができた。 今後に向けては、新型コロナウイルス感染症の影響による患者の行動変容や世界情勢による経済状況の変化など、病院を取り巻く経営環境が厳しくなることが予想される中で、より一層経営基盤の強化に向けた取組を行っていく必要がある。									
A 課題今後の決方向性	今後の事業の方向性		改善推進 圏域の医療機関等とはもとより、令和 7 年 4 月に経営統合する常滑市民病院との機能分担や診療体制の合理化を推進することで、地域に求められる医療、より質の高い医療を提供することにより収益を確保していく。									
	観点別評価		必要性		有効性				効率性			
			①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献		大きい		⑦コスト削減余地		ある	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地		ある		地		※手段の変更		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無		ない		⑧受益者負担適正化余地		ない		